

タイトル

—副題—

名前

*****@*****

キーワード：サンプル レイアウト テンプレート 東京大学大学院 人文社会系研究科
文学部 言語学研究室 東京大学言語学論集

要旨

これは東京大学言語学論集 (TULIP) 原稿作成要領です。レイアウトやフォントなどの基本的な情報が記載されているものです。

原稿は A4 用紙 (縦 297 mm, 横 210 mm) を用いて作成し、余白は上 35 mm、下 25 mm、左右 30 mm としてください。約 15%縮小され、B5 に白黒印刷されます (10.5 ポイントの文字は約 9 ポイントに、9 ポイントの文字は約 7.5 ポイントに縮小されます)。

「要旨」の見出しは、**ゴシック体**、10.5 ポイント、中央寄せとし、要旨本文は、明朝体、9 ポイント、としてください。要旨本文は、左右を 2 文字分ずつほど中に寄せて両端揃えで配置してください。

タイトル：**ゴシック体**、16 ポイント、中央揃え。副題：明朝体、12 ポイント、中央揃え (水平線「—」で囲む)。著者名：明朝体、12 ポイント、中央揃え。メールアドレス：書体自由、10.5 ポイント、中央揃え (記載は任意)。キーワード見出し：10.5 ポイント、**ゴシック体**、中央揃え。キーワード本体：明朝体、10.5 ポイント、中央揃え。キーワード本体が 2 行にまたがる場合は、各行の先頭位置が合うように配置してください (このテンプレートでは表を用いています)。

1. はじめに

本文節番号は 1 から始め、「0」や、番号のない節がないようにしてください。和文の場合、本文は、明朝体、10.5 ポイント、1 行あたり 42 字程度で両端揃え、1 ページあたり 36 行とし、句点は [。]、読点は [、] または [.] を使用してください。節見出しは、**ゴシック体**、10.5 ポイント、左寄せとしてください。本文中、英数字を含む場合、**ゴシック体**に相当する部分のフォントを **Arial** または **Helvetica** とし、明朝体に相当する部分のフォントを **Times New Roman** としてください。注は脚注としてください¹。

¹ 脚注は、明朝、9 ポイント、左詰めとしてください。1 行の文字数は、9 ポイントの大きさと 46~48 文字程度。注番号は半角とし、番号にカッコをつけなくてください。本文との境界に、上記のような長さ 50 mm 程度の境界線を入れてください。1 つの脚注が 2 ページ以上にまたがる場合は、2 ページ目以降の境界線の長さを 150 mm 程度としてください。※Microsoft Word をお使いの方は、脚注の機能を用いれば、上述の通りの境界線が自動的に付与されます (ただし初期設定のまま用いた場合)。

英文の場合、本文は Times New Roman、10.5 ポイント、1 行あたり 85 字前後²、1 ページあたり 40 行としてください。章見出しおよび節見出しは、Arial または Helvetica、10.5 ポイント、左寄せとしてください。

図表を示す場合、各図表に必ずキャプションを付してください。図のキャプションは図の下に、表のキャプションは表の上に記入してください。図表のキャプションは、ゴシック体、10.5 ポイントで記入してください。



図 1. 図のキャプション

表 1. 表のキャプション

	列 1	列 2	列 3
行 1	セル 1-1	セル 2-1	セル 3-1
行 2	セル 1-2	セル 2-2	セル 3-2

2. 節見出し

節見出しの節番号の最後にはピリオドを付してください。節番号と節見出しの間には半角空白を入れてください。

2.1. 小節見出し

グロス付き例文は、基本的に Leipzig Glossing Rules に従ってください。表やタブなどを用いて、対応する語とグロスを左揃えにしてください(このためにスペースを用いないでください)。対応する例文とグロスが別々のページに分かれないようにしてください。グロス付き例文では、意識を単引用符 ‘ ’ またはカッコ「」で囲んでください。以下 (1)–(3) は例文の例です。

(1) a. *My s Marko poexa-l-i avtobus-om v Peredelkino.*

we with Marko go-PST-PL bus-INS to Peredelkino

‘Marko and I went to Peredelkino by bus.’ (Leipzig Glossing Rules)

b. *nuuma=n nuur-i-i=du par-tar.*

馬=DAT 乗る-THM-SEQ=FOC 去る-PST

「馬に乗って帰った」(下地)

² 日本語バージョンの Word ソフトを用いる場合、1 行あたりの文字数(全角)を、10.5 ポイントの大きさに「42 字」と指定すれば、印字した場合の 1 行あたりの文字数(半角)が、スペースを含め 85 字前後となります。

(2) John is tying the cat to the monkey **by** his long tail.

ジョンは猫の長い尻尾を猿に結びつけているところだ。(平沢 2019: 161)

中国語文は、和文のフォントではなく、**SimSun** (宋体) や **SimHei** (黒体) などの適切な中文フォントを用いてください。

(3) * 小红 给 小王 看 富士山

シャオホン PREP 王くん 見る 富士山

「シャオホンは王くんに富士山を見せてやった」を意図 (木村)

2.2. 小節見出し

ここに本文が入ります。

3. 節見出し

ここに本文が入ります。

4. 節見出し

ここに本文が入ります。

5. 節見出し

参考文献は『言語研究』に準ずる方式で本文の後に記載して下さい。参考文献見出し：**ゴシック体**、10.5 ポイント、左寄せ。参考文献の書体・文字サイズは本文に準じる。ただし、文献1件が2行以上にわたる場合は、2行目以降の先頭を2字分ほど下げる。英文タイトルから英文要旨の後の著者名までが同一ページに収まらない場合は、参考文献の後ページを改め、新しいページから英文要旨を始めてください。

参考文献

Bloomfield, Leonard (1933) *Language*. New York: Holt.

Haegeman, Liliane (1994) *Introduction to government and binding theory*. Second edition. Oxford: Basil Blackwell.

服部四郎 (1976) 「上代日本語の母音体系と母音調和」『言語』5(6): 2-14.

Jakobson, Roman, Gunnar Fant and Morris Halle (1963) *Preliminaries to speech analysis: The distinctive features and their correlates*. Cambridge, MA: MIT Press.

金田一京助 (1932) 『国語音韻論』東京：刀江書院.

金田一京助 (1955) 「アイヌ語」市河三喜・服部四郎 (編) 『世界言語概説』下：727-749. 東京：研究社.

- Kiparsky, Paul (1968) Linguistic universals and linguistic change. In: Emmon Bach and Robert T. Harms (eds.) *Universals in linguistic theory*, 171–202. New York: Holt, Rinehart and Winston.
- Lakoff, George (1986a) *Women, fire and dangerous things: What categories reveal about the mind*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, George (1986b) *Cognitive semantics*. Berkeley Cognitive Science Report 36.
- Lakoff, George and Mark Johnson (1980) *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- 南西太郎 (2005) 「南西語音韻論研究」博士論文, 南西大学.
- Postal, Paul (1970) On the surface verb “remind”. *Linguistic Inquiry* 1: 37–120.
- Sag, Ivan (1976) Deletion and logical form. Unpublished doctoral dissertation, MIT.
- 佐久間鼎 (1941) 「構文と文脈」『言語研究』9: 1–16.
- 柴谷方良 (1978) 『日本語の分析』東京：大修館書店.
- Trubetzkoy, N. S. (1971) *Grundzüge der Phonologie*. 5. Auflage. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.

Main Title of the Paper: Subtitle

Author's name

****@****

Keywords: sample, layout, template, The University of Tokyo, Department of Linguistics,
Graduate School of Humanities and Sociology, Faculty of Letters, TULIP

Abstract

Abstract text here. Font 10.5-point Times New Roman. Abstract heading: **Arial or Helvetica**, 10.5-point, centered. Title and subtitle: **Arial or Helvetica**, 16-point, centered. Author's name: Times New Roman, 12-point, centered. E-mail address (if desired): Times New Roman, 10.5-point, centered. Keywords heading: **Arial or Helvetica**, 10.5-point, centered. Keywords body: Times New Roman, 10.5-point, centered.

(とうだい・かおる 東大研究所)